

I - 4 県西都市圏域

県西都市圏域は、2市8町（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）で構成され、県土の西部に位置しています。

1 都市づくりの目標

歴史と自然につつまれ、観光と交流による にぎわいのある都市づくり

富士・箱根・伊豆に連なる豊かな自然を背景に、山・川・海・湖・温泉、歴史や文化などの観光資源に恵まれた「県西都市圏域」では、これらの資源の保全・活用を図りながら、隣接する山梨・静岡両県と連携しつつ国内外から多くの人々が訪れ、交流する地域としての魅力の向上や、地域活力の向上に資する都市機能の集積を図り、職・住・遊が一体となって豊かな暮らしを実現できる都市づくりをめざします。



国際的な観光地・箱根

資料) 神奈川県小田原土木事務所

2 概況と課題

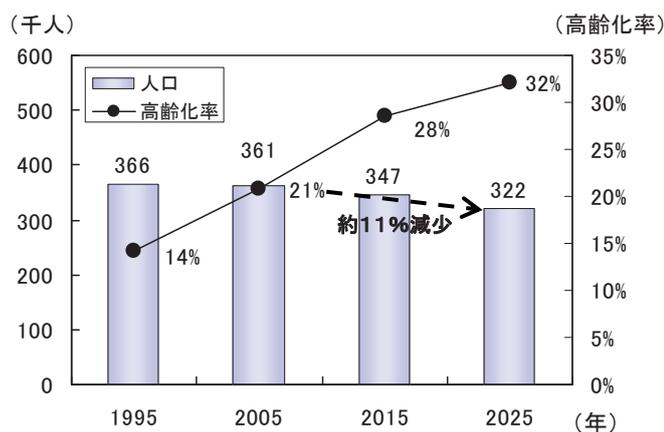
(1) 人口減少・高齢化に対応した都市の運営と地域活力の維持

人口は1995（平成7）年をピークに減少を続け、2025（平成37）年には2005（平成17）年に比べ約11%減少する見通しです。また、高齢化率は2005年において21%と三浦半島都市圏域に次いで高く2025年には32%まで増加する見通しです。

郊外部では、交通利便性が高い中心市街地に比べ、人口密度の一層の低下が予想され、道路、下水道などの社会資本の効率的な運営管理が課題となります。また、高齢化の進行に伴い、買物、通院など日常生活の利便性や、介護福祉サービス機能の確保などへの対応が課題になります。

とりわけ、山間部に点在する集落においては、コミュニティの維持などが課題となります。

■ 人口と高齢化率の推移（県西都市圏域）



資料) 神奈川県総合政策課「神奈川力構想・基本構想」

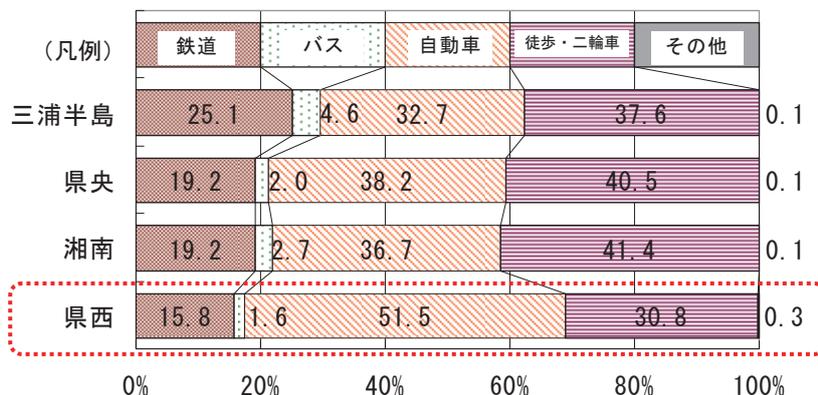
(2) 高齢社会に対応した交通体系の構築

4つの都市圏域の中で、最も鉄道、バスの利用率が低く、自動車利用率が高い地域であり、近年では、バス路線の廃止、縮小も見られ、バスのサービス水準の低下により自動車利用のさらなる増加が懸念されます。また、高齢化の進行に伴い、公共交通不便地域に住む自動車を運転できない高齢者が増加することが予想されます。このため、公共交通の利便性を確保しながら、過度に自動車に依存しない交通体系を構築するとともに、既存のバス路線と一体となったコミュニティバス¹⁵の運行などにより、高齢者のモビリティを確保することが必要になります。

¹⁵コミュニティバス

…地方公共団体等がまちづくりなど住民福祉の向上を図るため交通空白地域・不便地域の解消等を目的として、自らが主体的に運行を確保するバスのこと。

■ 全トリップに占める代表交通手段の割合



資料) 東京都市圏交通計画協議会「第5回(平成20年)パーソントリップ調査」

■ バス路線の廃止、減便などの状況【2004(平成16)年度～2008(平成20)年度】

単位:路線

	三浦半島	県央	湘南	県西
廃止	0	3	1	3
減便等	0	1	2	17
合計	0	4	3	20

資料) 神奈川県生活交通確保対策地域協議会

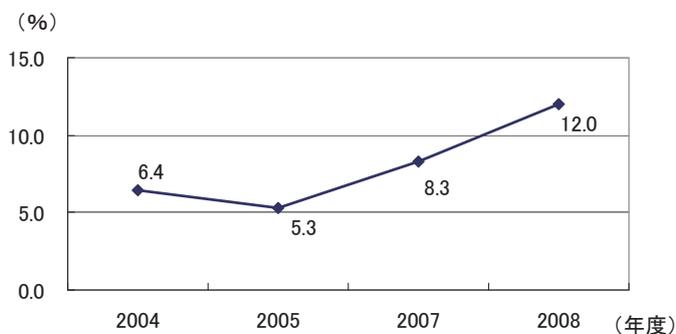
(3) 中心市街地のにぎわいの創出

箱根、湯河原の温泉、小田原の歴史ある城下町・宿場町の街並みなど、豊かな地域資源に恵まれ、休日の観光地においては、県内外から訪れる多くの観光客でにぎわっています。

一方、鉄道駅周辺の商店街においては、人口減少や郊外型大規模集客施設の立地に起因する買い物客の減少により、空き店舗が目立つなど、活力低下が懸念されます。

このため、商店街の活性化や街なか居住を促進し、経済活力を向上することで、中心市街地のにぎわいを創出することが必要になります。

■ 小田原駅周辺の商店街の空き店舗率



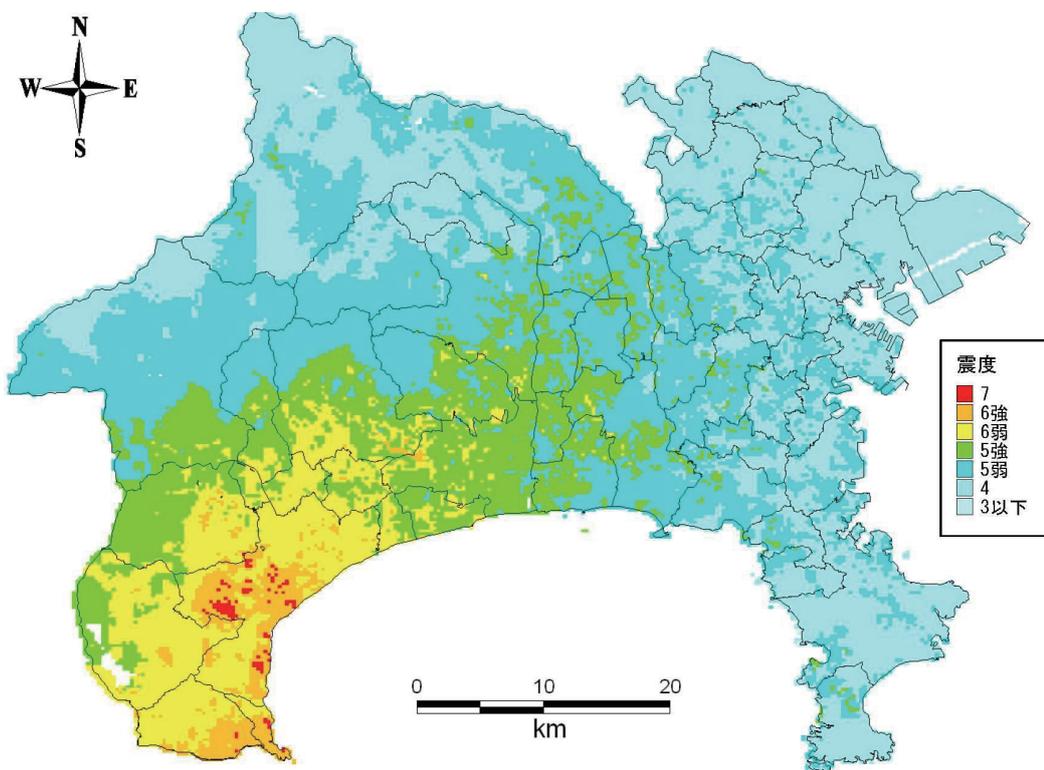
資料) 小田原市商店街実態調査

※2006年度は調査が実施されていない

(4) 切迫性が指摘される地震への対応

東海地震や神奈川県西部地震の切迫性が指摘されており、ひとたび地震が発生すると、がけ崩れや火災、津波などにより、甚大な被害が予想されます。また、災害時に孤立化する地域も想定されることから、地震災害から地域住民や観光客を守るため、防災、減災対策を充実し災害に強い都市づくりが必要になります。

■ 神奈川県西部地震の震度分布図



資料) 神奈川県地震被害想定調査委員会「神奈川県地震被害想定調査」(平成21年3月)

3 基本方針

「環境共生」の方針

多彩な交流を支え、住み続けられる環境づくり<複合市街地ゾーン>

- 郊外における市街地の拡大を抑制するとともに、鉄道駅周辺や地域の拠点周辺を中心に、住宅はもとより、商業施設や公共公益施設などの生活に必要な機能を集約し、街なか居住を促進することで、利便性が高く、効率的な都市の運営を図ります。
- このため、大規模集客施設や公共公益施設などについては、鉄道駅周辺や地域の拠点周辺への立地を誘導するとともに、空き店舗が目立つ商店街については、出店支援制度などを活用し解消を図ることで、にぎわいのある市街地を形成します。
- あわせて、郊外の住宅地と鉄道駅や地域の拠点を結び、バスの利便性を確保することで、高齢者などの移動手段を維持するとともに、自動車に過度に依存しないで生活できるまちづくりを進めます。
- 広域的な交通利便性など、産業適地としての条件を踏まえて、製造業のほか、観光に関連する産業や医療・福祉・環境分野などの新産業の立地を誘導し、みどり豊かな自然的環境と共生した、ゆとりあるライフスタイルが実現できる職住近接型の市街地の形成を図ります。
- 小田原城、社寺などの歴史的、文化的資産を観光資源として活用し、国内外から訪れる観光客と地域住民とが交流する、魅力ある市街地の形成を図ります。また、歴史、文化により育まれた個性ある街並み景観の保全を図ります。
- 地域住民のみならず国内外からの来訪者も対象として、切迫性が指摘されている神奈川県西部地震などに備えるため、情報提供などによる防災意識の向上や、建物の耐震化に取り組むとともに、避難路・輸送路やオープンスペースとしての道路や公園を確保することで、防災力の高い市街地を形成します。

計画的な土地利用による環境・資源の管理<環境調和ゾーン>

- 国際的な観光地である箱根、湯河原、真鶴地域においては、温泉、山なみや芦ノ湖などの自然景観、箱根関所や社寺などの歴史的、文化的資産を保全するとともに、観光スポットをめぐる周遊ルートの企画立案などを通じて、県・町の連携や民間企業などとの協力のもとで、地域の魅力を強化します。
- また、自動車利用から環境負荷が少ない自転車利用への転換に向けたパークアンドサイクル¹⁶などの取組みを行うことで、環境と共生し、多くの観光客でにぎわう観光地の形成を進めます。

¹⁶パークアンドサイクル

…駐車場に自家用車を駐車し、そこで自転車に乗り換えて目的地まで移動する方式。交通混雑を緩和する交通需要マネジメント（TDM）施策の1つの手法。

- 酒匂川などの河川の沿岸地域に広がる水田や雑木林、また、曾我丘陵や箱根の山すその農地、森林などに形成される里地里山の自然的環境は、所有者、地域住民をはじめとした多様な担い手により保全・再生を図るとともに、隣接する「自然的環境保全ゾーン」との連続性を踏まえて、計画的な土地利用を図ります。その際、農林水産業の振興などの観点から、既存集落の活力や生活環境の維持が必要な場合には、周辺地域の市街化を促進しない範囲で、地区計画に基づく土地利用の整序誘導や、地域の実情に応じたモビリティの確保などを図ります。
- あわせて、都市住民の自然志向などの多様なニーズを受けて、田園居住など自然と共生したライフスタイルとしての定住化のほか、森林浴や農業体験など、身近なレクリエーションや自然体験学習の場としても活用を図ります。
- 酒匂川の周辺地域は、富士・箱根・伊豆に連なる豊かな自然環境や歴史的・文化的な地域資源に恵まれており、これらを保全・活用したまちづくりを、県や市町による協力のもと、地域の住民が主体となって推進します。

豊かな自然的環境の維持〈自然的環境保全ゾーン〉

- 津久井から連なる西丹沢の豊かな山林は、「やまなみ・酒匂川景観域」を形成し、その美しい景観により人々を魅了するとともに、県の水源林として重要な役割を担っています。このため、間伐材の有効活用を通じた森林整備の推進や、県民、企業との協働により保全を図るとともに、都市住民が自然とのふれあいを体験できるエコツーリズムやレクリエーションの場として活用を図ります。

「自立と連携」の方針

《自立に向けた都市づくり》

＜広域拠点＞（都市圏域全体の自立をけん引する拠点）

- 小田原駅周辺においては、東海道新幹線をはじめとする5つの鉄道や、バスが結節する広域的なターミナル駅のゲート機能を生かし、商業・業務機能の集積や緑豊かな広場、歩行者回遊空間の整備を図ることにより、多くの人々が行き交う、交流とにぎわいのあるまちづくりを進めます。また、小田原城に代表される歴史・文化の拠点として、歴史的街並みの再生とともに、芸術文化交流機能の充実を図り、国際的な観光地の顔としてふさわしい都市づくりを進めます。鉄道駅や周辺交通施設については、バリアフリー化を図ることで、だれもが快適に移動できる空間を創出します。

＜地域の拠点＞（都市圏域全体の自立を支え、地域における日常生活のニーズにきめ細かく対応する拠点）

- 「大雄山駅周辺」では、再開発事業による駅前商店街の形成を踏まえ、観光や交通拠点をはじめとした多様な都市機能をもつ、にぎわいのある空間の形成を図ります。
- 「中井町役場周辺」では、行政、業務機能に加え、居住機能、商業機能など複合的な都市機能の集積を図ります。
- 「大井町役場周辺」では、行政サービス機能・福利厚生機能などの集積を生かし、中心市街地としての環境整備とあわせて、複合的な土地利用を図るとともに、景観に配慮した街並みの形成を図ります。
- 「松田、新松田駅周辺」では、駅周辺の基盤整備の推進などにより、交通結節機能を強化し、駅前商店街などにおける商業・業務機能の集積を図ります。
- 「山北駅周辺」では、行政サービス機能の集積や日常サービスに供する商業機能、観光機能など多様な都市機能の集積を図ります。
- 「開成駅周辺」では、なだらかな地形を生かし自転車利用を推進するとともに、土地区画整理事業による新たな産業・住宅機能の立地を誘導することで、都市機能の集積化、複合化を図ります。
- 「箱根湯本駅周辺」では、駅前広場や横断デッキの整備などにより、バリアフリー化やターミナル機能の充実を図るとともに、多様化する観光・レクリエーション志向にも対応した商業・業務機能の充実を図ります。
- 「真鶴駅周辺」では、真鶴半島及び真鶴港への玄関口として、魅力とにぎわいのある観光・商業機能などの集積を図ります。
- 「湯河原駅周辺」では、温泉や清流、海岸などの観光資源を生かし、観光産業や商業・業務機能の集積を図ることで、良好な都市環境の形成を図ります。

《連携による機能向上》

＜県土連携軸＞（都市圏域間・拠点間の交流連携を促進する連携軸）

- 首都圏や全国との交流連携を促進するとともに、防災性の向上といった視点も踏まえて、山梨・静岡との交流連携を強化し、富士箱根伊豆交流圏¹⁷として国際的な観光拠点の形成を図るため、「県央足柄軸」を構成する「新東名高速道路」の整備や、「相模湾軸」を構成する「西湘バイパス」の延伸を進め、「東海道貨物線」の本格的な旅客線化に取り組みます。
- 広域拠点「小田原駅周辺」のゲート機能を生かし、都市圏域内での多様な交流連携を支え、豊かな自然や歴史・文化を生かした富士・箱根・伊豆の広域的な観光の回遊性を創出するため、「酒匂東軸」を構成する「酒匂縦貫道路」の整備を進めるとともに、「酒匂西軸」を構成する「酒匂右岸幹線」の整備や「大雄山線」の延伸などに向けて取り組みます。

＜都市連携軸＞（地域の特性を踏まえた都市づくりを支える連携軸）

（主に都市圏域内の交流を支える軸）

- 広域拠点「小田原駅周辺」の中心市街地を迂回する連携軸として、「小田原環状軸」を位置づけ、商業・業務、観光・レクリエーションなど多様な都市機能の交流連携の強化を図ります。

¹⁷富士箱根伊豆交流圏

…富士箱根伊豆国立公園を中心とした、自然のつながりや将来の高速交通網の整備を勘案し、一体的な地域振興を図るエリア。（山梨県：富士北麓圏域及び峡南、東部圏域の一部、静岡県：富士、駿東・田方、熱海・伊東、伊豆地域及び静清庵地域の一部、神奈川県：足柄上地区、西湘地区）

